

はまなす句会（十二月十四日）（百十八回）

寒風に吹かれし貌のみな似たる

圭二

山茶花を殊に好みし君逝きぬ

菊枝

粉雪の枝に吹付き花となる

由美子

水仙や風雨にたえて凜と咲き

久子

人の道歩き疲れて年忘

克司

さっぱりと木の葉落として明日へ継ぐ

玲子

気嵐の沖行く船も薄れぎみ

則子

